



「3・11」から早や五年半  
福島原発汚染視察①

二〇一一年三月十一日、東北太平洋沖地震とその後の大津波に よって引き起こされた「東日本大震災」。悲劇は地震と津波だけでなく、それに伴って起きた東京電力福島第一原子力発電所の爆発と放射能漏れによる放射能汚染である。

二〇一二年末、当時カトリック山口教会におられた柴田潔神父(現在は徳山教会主任司祭)から「現地にはボ

二〇一二年末、当時カトリック山口教会におられた柴田潔神父(現在は徳山教会主任司祭)から「現地にはボ

三つの区域を合計すると、何と五万六千六百六十四人。五年半過ぎても自分の家に帰れない人がこんなにもおられることを改めて知り、がく然とした。正直に言えば、自分の中で東日本大震災は風化している。今年に入り、熊本地震や台風10号による新しい災害



原発放射能汚染地域

とともにも気になつてい たのは福島第一原発の爆発に伴う放射能汚染地のことである。しかし住民も強制的に避難させられ、現地に入ることはできない。報道によると、今年六月十四日時点で「帰還困難区域」で避難生活を余儀なくされている人は二万三千八百七十二人、「居住制限区域」で避難している人が二万八千八百六十三人、「避難解除準備区域」の避難者は二万九百二十九人という。



当時は連日大きく報道されたが...

により、風化に拍車がかかる。最近、放射能汚染地域の除染作業が進み、居住制限区域や避難解除準備区域だったところからの帰還やその準備の話が少しずつ報道されるようになってきた。今まで全面的に立ち入りが禁止されていた所も日中だけ立ち入り可能になった所もある。しかし帰還困難区域の帰還は目途も立っていないとか…。とにかく目に見えない放射能汚染は不気味である。

後期高齢者の一人として平凡に日常生活を過ごしているが、それがこんなにも有り難いことだと思つたことはない。五年半過ぎても日常の生活に戻れない人のことを考えると胸が痛む。突然だが連載中のパレスチナ巡礼記を中断することにしました。

カトリック広島司教区災害サポートセンターの主催で、二泊三日で原発汚染の福島を視察する旅が企画された。団長は災害サポートセンターの仕事もしておられるカトリック下松教会の原田豊己主任司祭。自分が所属す